

令和5年度 メディカルサポート部バスケットボール競技班 活動報告

1. メディカルサポート活動

1) 実施大会

下記4大会、全112試合に参加した。本年度は、昨年度休止していた高校会場でのサポート活動が戻り、インターハイとウィンターカップにおける活動日数が1日ずつ、試合数は40試合増加した。

第77回関東高等学校バスケットボール選手権大会県予選会（県総体）	：3日間32試合
第78回全国高等学校総合体育大会県予選会（インターハイ）	：4日間30試合
第76回全国高等学校バスケットボール選手権大会県予選会（ウィンターカップ）	：3日間14試合
第34回関東高等学校バスケットボール新人大会県予選会（新人大会）	：4日間36試合

2) サポート活動内容

① 救護活動

試合中の救護活動として、試合中の傷害に対する応急処置を実施した。加えて、救護活動を円滑にする為の準備として、各会場にて **Emergency Action Plan** に基づき、AEDや担架の保管場所を確認し、傷害発生時を想定した搬送ルートの確認を行った。

② コンディショニング

会場の一角にブースを設営し、試合前後でテーピング等のコンディショニング依頼に対応した。

尚、昨年度に高体連の感染対策とされた午前午後でのスタッフの入れ替えを実施していたが、本年度からは例年通りの運営に戻った。しかし、参加スタッフの都合に合わせて窓口を広げる目的で半日のみのサポート参加募集枠は残し、一部入れ替え制を継続した。

昨年と異なる点として、入場・退場時間の制限が緩和したことで試合前後のコンディショニング対応の時間に比較的余裕を持てた。

3) 参加スタッフ数（表1）

メインスタッフ延べ34名（実数12名）、アシスタントスタッフ延べ21名（実数14名）が参加した。また、本年度中にアシスタントよりメインに昇格した人数は4名（参加2～5年目）であった。

4) 対応件数・回数（表1）

選手の対応件数は72件、対応回数は延べ203回であった。1試合あたり対応件数は0.64件、対応回数は1.81回であった（H23～R4年度の平均は、1試合あたり対応件数は0.35件、対応回数は0.73回）。本年度の対応件数・回数および1試合あたりの対応回数・件数は、バスケメディカルサポート開始からともに最多であった。

表1 メディカルサポート日程および参加スタッフ、対応件数・回数について

	日数 (日)	試合数 (試合)	スタッフ数(名) メイン / アシスタント	対応件数 (件)	対応回数 (回)
県総体	3	32	8 / 5	18	65
インターハイ	4	30	11 / 7	20	53
選抜大会	3	14	5 / 7	13	23
新人大会	3	36	10 / 3	21	62
計	12	112	34 / 22	72	203

5) 傷害の受傷起点

実施大会における受傷起点の分類では、外傷 35 件、オーバーユース 33 件、その他 3 件、判断不能 1 件と例年に比較してオーバーユースが多い傾向であった（令和 4 年度は外傷 13 件、オーバーユース 2 件、令和元年度は外傷 51 件、オーバーユース 13 件、平成 30 年度は外傷 54 件、オーバーユース 9 件）。

6) 傷害部位と傷害分類（表 2）

実施大会における傷害分類の内訳は、関節構成体損傷が 30 件、筋痙攣が 22 件、筋・腱損傷が 17 件の順に多く見られ例年と同様の傾向が見られた。反対に打撲の対応が少ない傾向であった。

部位別分類の内訳で多いのは、関節構成体の損傷で足関節が 15 件、膝関節が 11 件、下腿筋痙攣が 16 件存在した。また、脳震盪疑いに至った対応が 2 件、至らなかったが頭部打撲の対応が 1 件存在した。

表 2 実施大会の傷害部位別傷害分類について

傷害部位	傷害分類										計
	脳震盪疑い	打撲	出血	骨折	筋痙攣	筋腱損傷	A*	熱中症	判断不能	その他	
頭部	2	1	－	－	－	－	－	－	－	－	3
顔面	－	1	－	－	－	－	－	－	1	－	2
胸腹部	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	1
腰部	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	1
肩関節	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	1
上腕部	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	1
肘関節	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	1
手部	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	1
手指	－	－	1	－	－	－	1	－	－	－	2
股関節	－	1	－	－	－	2	－	－	－	－	3
大腿部	－	3	－	－	6	1	－	－	－	－	10
膝関節	－	－	1	－	－	4	11	－	－	2	18
下腿部	－	－	－	－	16	2	－	－	－	－	18
足関節	－	－	－	1	－	4	15	－	－	－	20
足部	－	－	－	1	－	1	1	－	－	－	3
足趾	－	－	－	－	－	－	1	－	－	1	2
その他	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	1
合計	2	8	2	2	22	17	30	1	1	3	88

A*：関節構成体の損傷

7) 対応内容

実施大会における対応内容の内訳は、テーピング 36 回、ストレッチ 43 回、アイシング 20 回、止血処置 4 回、徒手治療 31 回、傷害確認・対処方法の指導が 63 回、救急搬送 2 件であった（表 3）。

傷害部位と対応内容の内訳では、下腿部を中心とした下肢のストレッチや徒手治療、足・膝関節テーピングが多く見られた（表 4）。

表 3 メディカルサポートの対応内容

	テーピング	ストレッチ	アイシング	止血処置	徒手治療	(A)	救急搬送	その他	計
県総体	10	14	7	－	10	24	－	－	65
インターハイ	7	13	4	4	7	14	1	3	53
ウィンター	5	5	4	－	2	7	－	－	23
新人大会	14	11	5	－	12	18	1	1	62
計（回）	36	43	20	4	31	63	2	4	203

(A)：傷害確認・対処方法の指導

表 4 実施大会の傷害部位別対応内容について

傷害部位	対応内容								計
	テーピング	ストレッチ	アイシング	止血処置	徒手的治疗	傷害確認	救急搬送	その他	
頭部	－	－	－	－	－	2	1	－	3
顔面	－	－	1	－	－	2	－	－	3
胸腹部	－	－	－	－	－	2	－	－	2
腰部	－	1	－	－	1	1	－	－	3
肩関節	－	－	1	－	1	1	－	－	3
上腕部	－	－	－	－	－	1	－	－	1
肘関節	－	－	－	－	－	1	－	－	1
手部	1	－	1	－	－	1	－	－	3
手指	1	－	－	2	－	1	－	－	4
股関節	－	2	－	－	2	2	－	－	6
大腿部	3	8	1	－	3	4	－	－	19
膝関節	10	8	2	2	6	12	－	4	44
下腿部	1	20	6	－	9	14	－	－	50
足関節	17	2	5	－	6	15	－	－	45
足部	2	1	1	－	1	2	－	－	7
足趾	1	1	1	－	2	2	－	－	7
その他	－	－	1	－	－	－	1	－	2
合計	36	43	20	4	31	63	2	4	203

2. 教育・指導体制

1) メディカルサポートにおいて

サポート現場での教育体制として、アシスタントスタッフと指導可能なメインスタッフの育成のために救護活動やコンディショニングに関する準備に取り組んだ。本年度はサポート活動初参加の者が 9 人（35%）と多く存在した。そのため、バスケメディカルサポート 1 日の流れや基本的な救護対応の確認を重視した。その上で、経験年数を重ねたスタッフも含め、大会前勉強会で検討症例を例に聴取する情報や対応の流れの再確認、脳震盪疑いの選手への対応フローチャート表や **Emergency Action Plan** に基づいた準備などを情報共有した。

2) 定期勉強会

各大会前に定期勉強会を計 4 回開催した。昨年度はオンラインによる講義・ディスカッションを中心に実施していたが、今年度より対面による講義・ディスカッションへと変更となった。定期勉強会へ参加しているメディカル経験年数は、1 年目から 4 年目と現場経験が少ない方が中心であった。内容は、現場での救急処置（1 回）や対応症例をもとにした検討会・実技練習（3 回）など障害や外傷から必要となる評価項目の列挙、評価結果から考えられる病態把握・対応など実際の現場で慌てることなく対応できることを目的とした。

① 県総体前勉強会

【日時】令和 5 年 5 月 8 日(月) 19:30～21:00

【会場】あさくらスポーツリハビリテーションクリニック リハビリ室

【内容】現場での応急処置（脳震盪、搬送法について）

【参加人数】計 14 名（その内県総体への参加者 8 名）

※勉強会における感染対策として、「群馬スポーツリハビリテーション研究会 メディカルサポート部バスケットボール競技 対面勉強会における感染予防策マニュアル」を掲示。

② インターハイ前勉強会

【日時】令和5年6月12日(月) 19:30～21:00

【会場】あさくらスポーツリハビリテーションクリニック リハビリ室

【内容】R5年度県総体で実際に起きた症例の検討会

【参加人数】計6名（その内インターハイへの参加者4名）

③ ウインターカップ前勉強会

【日時】令和5年10月24日(火) 19:30～21:00

【会場】あさくらスポーツリハビリテーションクリニック リハビリ室

【内容】実際に起きた足関節症例の検討会、足関節テーピング実技

【参加人数】15名（その内ウインターカップへの参加者9名）

④ 新人大会前勉強会

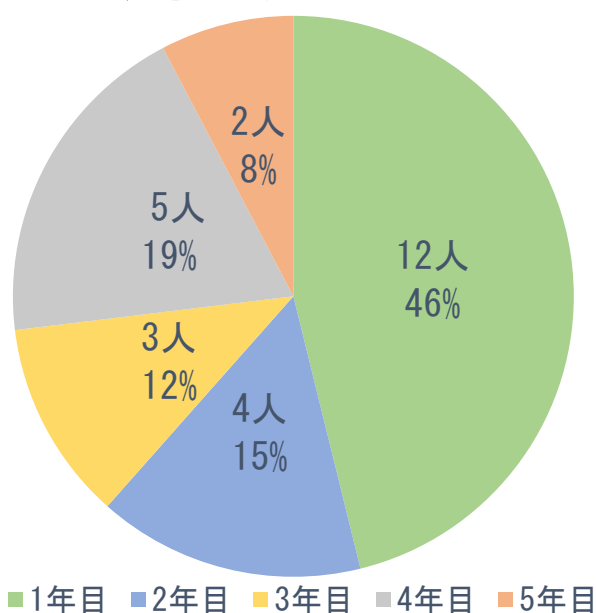
【日時】令和6年1月9日（火）19:30～21:00

【会場】あさくらスポーツリハビリテーションクリニック リハビリ室

【内容】現場対応症例の検討会：膝関節周囲障害に対する検討（問診～評価～対応の流れの整理）

【参加人数】8名（その内新人大会への参加者7名）

勉強会参加者 メディカルサポート経験年数



メディカルサポート経験年数		
経験年数	実数	延べ数
1年目	12	16
2年目	4	11
3年目	3	9
4年目	5	6
5年目	2	4
計	26	46

< 定期勉強会参加者からの感想・ご意見 >

- ・勉強会の開催ありがとうございました。初めての参加でしたが、テーピング練習の際に気軽に質問させていただき、非常にありがたい環境でした。症例検討の際も周囲と協議する時間があると、もう少し意見が飛び交うのではないかと思います。
- ・症例報告では、実技を交えながらだったので、イメージが伝わりやすかったです。また、症例報告と併せて皆でテーピングの練習を行えたことは有意義でした。
- ・バスケメディカルは応急処置以外にもコンディション向上を目的とした依頼が多いイメージがあり、自分がどこまでできるかと不安があるため今回の症例検討はとても勉強になりました。

- ・お忙しい中企画していただきありがとうございました。こういった点に着目しているのか、メディカルとしてこういった対応ができるのかとても勉強になりました。またこのような機会があれば参加させていただきたいです。
- ・症例を通して他のスタッフと意見を交わし、対応に多角的な視点を増やすことができました。またその時、実際の対応まで詳細に教えていただき参考になりました。
- ・グループディスカッションでは事例に対する評価・対応内容をグループ内で考え、全体で共有できたのは良かったです。他グループで挙げた項目やバスケットボールスタッフからのご意見から自分たちのグループで挙げた内容の補足箇所、修正点が分かりました。実際の現場では限られた時間内で対応にあたる為、問診・所見から得られた情報をもとに可能性のある病態・疾患を考え、必要な検査・測定を優先順位つけながら実施できればと思います。また評価結果をもとに原因組織を特定し、リスクを考慮した上で最善の対応ができるようにしたいです。今回は残り時間の関係で対応内容に関する実践はデモンストレーションまでとなりましたが、また機会があれば実技を通して考えたことなどを話し合えればと思います。

3. まとめ

令和5年度の群馬県高校バスケットボールメディカルサポートは、昨年度休止していた高校会場でのサポート活動が戻り、2大会における活動日数・試合数とも増加した。高体連の感染対策とされた午前午後での大会本部スタッフの入れ替えは廃止されたが、メディカルサポート参加の窓口を広げるためスタッフの半日参加での募集は継続した。

サポート活動では、本年度の対応件数・回数および1試合あたりの対応件数・回数がバスケメディカルサポート開始からともに最多となった。傷害部位と傷害分類に関しては例年と大きな変化は認めなかった。

対応件数・回数が増えた要因として、チーム責任者へのメディカルスタッフからの声かけもあり急性傷害だけでなく慢性障害の対応も増えたこと、3・4回戦の試合だけでなく大会最終日の上位チームでも帯同トレーナー不在のチームも存在し、対応を求められるケースも存在したためだと考えられる。また、推測の域を出ないがコロナ禍において中学生年代の運動が制限され、今年度のオーバーユース症例の増加に影響している可能性も無視できない。その他、昨年度と変化した点は、入場・退場の時間規制が緩和され、試合前後のコンディショニング対応の時間にゆとりを持てた印象であった。

大会前勉強会では、各大会前に全4回対面で開催した。内、1回は救急対応、3回は症例ベースの検討・実技練習を実施した。症例検討が多い理由として、現場対応で障害や外傷から必要となる評価項目の列挙、評価結果から考えられる病態把握・対応力の向上や情報共有が、参加経験の少ないスタッフには必要と考えたためである。また、アンケートでは対応の進め方や着眼点は勉強になったと意見をいただいた。

バスケメディカルサポートとしては来年度も継続して3回戦以降の試合で可能な限りサポート活動を実施していきたい。また、発生頻度や緊急性の高い症例への対応については、引き続き大会前勉強会や現場の中でスタッフへ指導を継続していきたい。

群馬スポーツリハビリテーション研究会
メディカルサポート部バスケットボール競技班
深津、奥井、新井、木島、梅山、濱崎